

## 再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

事業名 西九州自動車道 一般国道497号 <small>いまりまつうら</small> 伊万里松浦道路	事業区分	一般国道 国土交通省 九州地方整備局	
起終点 自：佐賀県伊万里市東山代町長浜 至：長崎県松浦市志佐町	延長	17.2km	
事業概要 伊万里松浦道路は、西九州自動車道の一部を形成する道路であり、九州北西部の広域的な地域間の連携を図り、地域活性化や物流の効率化に大きく寄与するとともに、防災機能・安全性向上などを確保する事業である。			
H9年度事業化	H17年度都市計画決定 (H一年度変更)	H19年度用地着手	
全体事業費 約677億円		事業進捗率 約47%	
計画交通量 8,400～12,900台/日		供用済延長 0.0km	
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.4 (残事業) 2.3	総費用 (残事業)/(事業全体) 372/624億円 (事業費：331/582億円) (維持管理費：42/42億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 846/846億円 (走行時間短縮便益：647/647億円) (走行経費減少便益：128/128億円) (交通事故減少便益：71/71億円)
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=1.2～1.5 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.3～1.4 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.2～1.5 (事業期間±20%)			
【残事業】交通量：B/C=2.1～2.5 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=2.1～2.5 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=2.0～2.5 (事業期間±20%)			
事業の効果等 ①地域間交流連携の支援 ・伊万里市～松浦市間の時間短縮による地域間の交流連携の活性化に寄与 ②地域産業の支援 ・輸送時間短縮や走行性向上による地域ブランドの付加価値が向上 ③災害に強いネットワークの構築 ・並行現道である国道204号の災害時における代替路として機能 ④活力ある地域づくりの支援 ・観光拠点へのアクセス時間の短縮や観光周遊の可能性拡大による地域の観光振興に寄与 ⑤交通安全・走行性の向上 ・並行現道である国道204号の線形不良箇所を回避することができるため、大型車両を含めた自動車の走行安全性や快適性が向上			
関係する地方公共団体等の意見 唐津市・伊万里市をはじめとする8市4町で構成される西九州自動車道建設促進期成会等により早期整備の要望を受けている。(平成25年8月)			
県の意見： (佐賀県) ・早期整備を強く望んでいるところであり、継続することについては、異議ありません。 (長崎県) ・事業を継続し、早期整備、早期完成に取り組んでいただきたい。			
事業評価監視委員会の意見 審議の結果、事業継続。			
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等			

沿線地域の伊万里市、松浦市の人口は減少傾向にあり、自動車保有台数も近年減少に転じているものの九州全体、佐賀県・長崎県平均よりも高く、自動車依存は高い。並行現道である国道204号の交通量は増加傾向にある。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成24年度末の事業進捗率は約47%であり、そのうち用地進捗率は約98%となっている。(山代IC～松浦IC)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き用地買収・工事を推進し、事業進捗を図っていく。

- ・山代IC～今福IC L=5.5km (2/2) : 平成26年度開通予定
- ・今福IC～調川IC L=2.6km (2/2) : 平成29年度開通予定
- ・調川IC～松浦IC L=2.2km (2/2) : 平成30年度開通予定

施設の構造や工法の変更等

施設の構造や施工等に変更はないが、新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上、事業の効果及び進捗状況、事業評価監視委員会における審議、地方公共団体等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
 ※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。